

中学校で国語の授業を担当するようになってから、ずっとやりたかったことの一つに「国語科通信」があった。それが実現できたのは4校目の学校だった。このようなことを以前、この「校長室だより」で紹介したことがある。だが、これは間違いであった。私の記憶違いというか、記憶から抜け落ちていた。

週末になると、書斎（本とファイルだらけの物置）で探し物をしていることが多い。すると、思わぬ“幸運”に巡り合うことがある。その日は、背表紙に筆ペンによる手書きの文字で「平3 国語科通信 H中」というファイルを見つけた。今となっては懐かしいB5判のものである。

さてよ。平3と言えば、教員4年目、中学校教員1年目ではないか。日々、中学3年生の国語の授業に四苦八苦していたときである。明日の授業は大丈夫かという不安と恐怖を少しでも払拭するために、ワークシートを作成してから授業に臨むということを繰り返していたときである。

そんな余裕のないときに、まさか自分が国語科通信を出していたとは思っても寄らなかった。全く記憶がなかった。しかし、確かに出していたようである。ファイルを開くと、これも懐かしいワープロによるB4判のものがNo.35まで出されていた。1週間に1号のペースである。きっと、毎週出すと決めていたのだろう。

No.1が5月1日に出ている。タイトルは「風薫る5月の始まりです！」となっている。

さわやかな5月の始まりとともに、国語科通信「薫風」を発行することにしました。タイトル「薫風」の意味は、〔初夏に若葉のかおりを漂わせて吹くさわやかな風〕（新明解国語辞典 三省堂）です。いろいろ迷ってこのタイトルにしました。みんなの心の中に、少しでもさわやかな風が吹くようにがんばります。

さて、どんなことをこの通信に載せるかという、

☆ みんなの作品

☆ 季節に関わる話

☆ 勉強方法

☆ 先生の考え

☆ 試験対策

☆ その他思いついたこと

などです。ほかのクラスの人の感想、ノート、考えなども参考にしてください。

このようにスタートしている。内容を見てみると、生徒が授業中に書いた記述内容、ワークシートの記入例、国語の学習方法、定期テスト対策などとなっている。ところが、6月になると、中体連大会へ向けてのメッセージがあった。直接的には国語の授業とは関係のない内容である。きっと、書きたかったのであろう。

7月になると、夏目漱石や島崎藤村の紹介があった。教科書の教材文に関連する新聞記事の紹介もあった。9月になると、進路指導に関するメッセージも出てくる。これも中学3年生を前にして書かずにはいられなかったのだろう。

自分の記憶に残っていない原因を考えてみた。まず、前提として、中学3年生の国語を担当するという重圧から「何かしなければ」という思いがあったこと、「大村はま先生」の国語科通信に出合ってから、いつか自分も出してみたいと思っていたことがあったと思う。だが、内容が薄く、自分としても満足のいくものではなかったというのが、自分の記憶ボックスに収納されなかった理由だと思われる。

記憶というものは便利なものである。自分の都合のいいように残せるし、必要のないものは消去もできる。また、時が経つと更新もできる。B5判のファイルを見つけなかったら、自分の国語科通信のスタートは、平成15年度になるところであった。「薫風」のスタートも学級通信になってしまうところだった。やはり、記憶よりも“記録”である。

昔のことを覚えていない自分は、どうかと思う。だが、昔のものを捨てないでとっておく自分にはあきれながらも、そんな自分を嫌いというわけではない。これからはせっせと探し物を続けよう。また幸運に出合えるかもしれない。